

会 議 録

会議の名称	平成23年度第3回行田市地域活性化推進委員会
開催日時	平成23年11月14日（月） 開会：午後2時 閉会：午後4時00分
開催場所	市役所305会議室
出席者氏名	川辺秀夫委員、今村武蔵委員、柳政男委員、 小河原総合政策部長、浪江生活課長、河野観光プロジェクト推進室長、 小巻商工観光課長、岡村まちづくり推進課長
欠席者氏名	長谷川浩委員、松井秀二郎委員、戸塚昌利委員、新井重人委員、 小林農政課長、長谷川福祉課長、新井高齢者福祉課長
事務局	企画政策課：小池課長、五十嵐主幹、風間主査
会議内容	司会 小池企画政策課長 議事 (1) 地域活性化についての意見交換 (2) その他
会議資料	○第1回地域活性化推進委員会が出された意見等 ○第8回熊谷妻沼手づくり市 ○行田市観光おもてなしセミナーパンフレット
その他必要事項	傍聴者 なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 新委員紹介 3 会長あいさつ 4 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・早速でございますが、議事に入らせていただく。ここからは、委員会設置要綱第7条第1項の規定に基づき、会長に議事の進行をお願いする。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。議事が円滑に進みますよう、皆さまのご協力をお願いする。 ・はじめに、事務局に伺う。本委員会の会議は、原則公開となっているが、本日の審議内容に、非公開とすべき事項はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・特段、非公開とすべき事項はない。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・特段の非公開事項はないとのことであり、本日の会議を公開するということでよろしいか。 ・それでは、公開して会議を進めたい。 ・議事の(1)、地域活性化についての意見交換ということで、事務局の説明を求める。
事務局	<p><資料「観光振興による地域再生」に基づき説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の資料から引き続き、まちを歩く観光に絞って検討していきたい。中心市街地の活性化を目的に、自転車等も活用した歩く観光をこの委員会で議論していきたい。各々課題を出していただきたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・どこを中心にして半径1～2km内を考えるか。できれば、集中して道路、歩道など全てのものを整備すべきであり、その後、核ができたなら、周辺へ分散させるべきである。 ・観光客を分散させないために、歩く観光の拠点となるバスの停留所をまず決めたほうがよい。 ・125号周辺の整備となると10～20年、若しくはそれ以上かかると思う。景観の面から忍城を感じさせる色彩を考えなければならない。 ・地道に着実に一步一步取り組んでいかなければ、本物にならないと思う。また、一緒に市民の意識も高めていかなければならない。

商工観光課長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にもあるが、「住んでよし」言葉が重要である。「住んでよし」とは、市民満足度を上げることである。市民が自分たちのまちに満足する状況をいかにつくるか。郷土愛を持てるようになるには、公共の価値（景観、歴史文化）を高めることが必要である。 ・オンリーワンのまち、行田にしかないものを具体化することがテーマになると思う。行田は水のまちであるから忍川などの水辺を綺麗にしていきたい。市民大学において、忍城から水城公園までの小路を活用する、「癒しの散歩道」を提言した。 ・京都祇園などの大通りから一步踏み込んだ道に入ると別世界を感じる。行田でも125号から道一本外れた路地通りに景観地区があると面白い。有名な観光のまちでは、地図を広げていると気軽に話しかけてきてくれ、まちの方々との交流、出会いの場がある。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の活性化には、商店個々の意識改革が必要である。大型店が進出したから衰退したのではない。 ・のぼうの城が公開されるまでの今年、来年こそ行田市民の意識改革のチャンスである。映画をみて、行田を訪れた観光客をどうにかしてリピーターにしなければならない。行田検定を子供たちの親を巻き込むツールとして活用してほしい。
観光プロジェクト推進室	<ul style="list-style-type: none"> ・妻沼の手づくり市は、玄関前で商売、何万人ものひとを集めている。八幡町から新町通りをつかって、軽トラ朝市をと考えている。軽トラ朝市も工夫した売り方をすれば、もっと売れるはずである。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が楽しめるイベントを考えなければならない。B-1グランプリのボランティア1,600人は、ボランティア活動を通して、ある程度の満足感があつたはずである。市民が楽しめる市民総参加のイベント開催が大事である。
議 長 生活課長	<ul style="list-style-type: none"> ・歩く観光ということで、他に課題等があれば発言をいただきたい。 ・横浜の港南台タウンカフェにある小箱ショップを個人と法人、NPOが交流の場として活用している。観光客は、行田に来る際、電車を利用する。そのために行田駅を利用しやすく整備することが必要である。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土博物館が昨年比べて、入館者が5割増しという情報をもっと市民に発信すべきである。

商工観光課長	・メディアを有効に活用していくことは考えている。
委員	・子育てをしているお母さんたちを、なんとかまちづくりに参加させたい。居住するまちの教育レベル、教育環境に子育て世代は敏感である。
生活課長	・子どもを生んで育てる環境をどうするか。どうやったら子育て世代に行田が選ばれるのか。現在、男女共同参画の策定中で、行田市のM字カーブが県の平均より緩やかであるのに、別の調査によると、未就学児の母親の就業率は4割を切っている。もしかしたら、他市に比べると行田は、子育て世代が少ないのではないか。
委員	・通勤環境を考えて、行田が選ばれているのかどうか。 ・女性（子育て世代）は、近くに幼稚園・小学校があり、さらにショッピングセンターがあれば、駅前よりも郊外に住宅を買う傾向がある。 ・ものづくり大学周辺を開発し、学園都市にしてみてもどうか。
議長	・人口減少対策も大事である。しかし、この委員会では観光、歩く観光に絞って議論をしていきたい。
委員	・女性の意見も聞かなければならない。男性には、考えつかない意見を持っている。
商工観光課長	・羽生市で県内172のゆるキャラを集めた「ゆるキャラサミット」が開催される。子供たちが楽しめるイベントであれば、親たちも一緒に参加してくれる。
委員	・行田は今まで全国規模のイベントを開催したことがない。ぜひ、開催すべきである。 ・行田の子育て関係の制度を知らない市民が多いので、もっとPRしていかないといけない。 ・行田には、足袋蔵やB級グルメなど面白いものがたくさんあると思う。近隣市に比べても観光資源は豊富である。 ・小規模でも構わないので1箇所魅力ある場所をつくり、徐々に広げていくべきではないか。裏通りを活かすべきである。 ・10～20年の長期的な取り組みの中で、例えば裏通りの小路の色を変えたりして、景観を整備していけば良いのではないか。
商工観光課長	・来年は、「のぼうの城」をメインに考えている。行田に入ったとたん

<p>委員</p> <p>商工観光課長</p>	<p>「のぼう」一色を目指している。八木橋でも「のぼうの城」にちなんだ行田物産展を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行田市内いたる所に、旗を立ててPRすべきである。 ・商工センターの旧「赤レンガ」の活用方法は、どうなっているのか。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が、気軽に立ち寄れる場所として、お土産を置いた案内所を考えている。来年から始動できるように準備している。 ・案内所の運営に市民大学を活用しても良いのではないか。 ・道の駅を郊外ではなく、中心市街地につくることも良いのではないか。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回に向けて、リピーターを呼び込む観光を議論していきたい。今回出た課題等を事務局でまとめ、委員の皆さんに提供していき、地域活性化に結びつけられる委員会としての提案ができればと考えている。 ・続いて議事の2「その他」ですが、事務局から何かあるか。
<p>事務局</p> <p>議長</p> <p>司会</p>	<p><第4回地域活性化推進委員会の開催について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは、以上をもちまして、すべて終了とする。これをもちまして、議長の職を解かせていただく。 ・本日出た課題等を含めて事務局でまとめたものを早めに、委員の皆さんへ提供していきたい。 ・以上をもって、第2回目の行田市地域活性化推進委員会を閉会とする。 <p style="text-align: center;"><閉会></p>